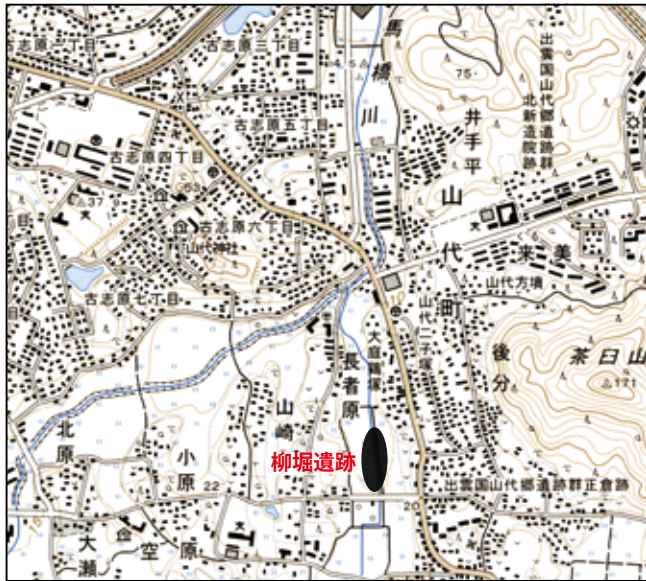


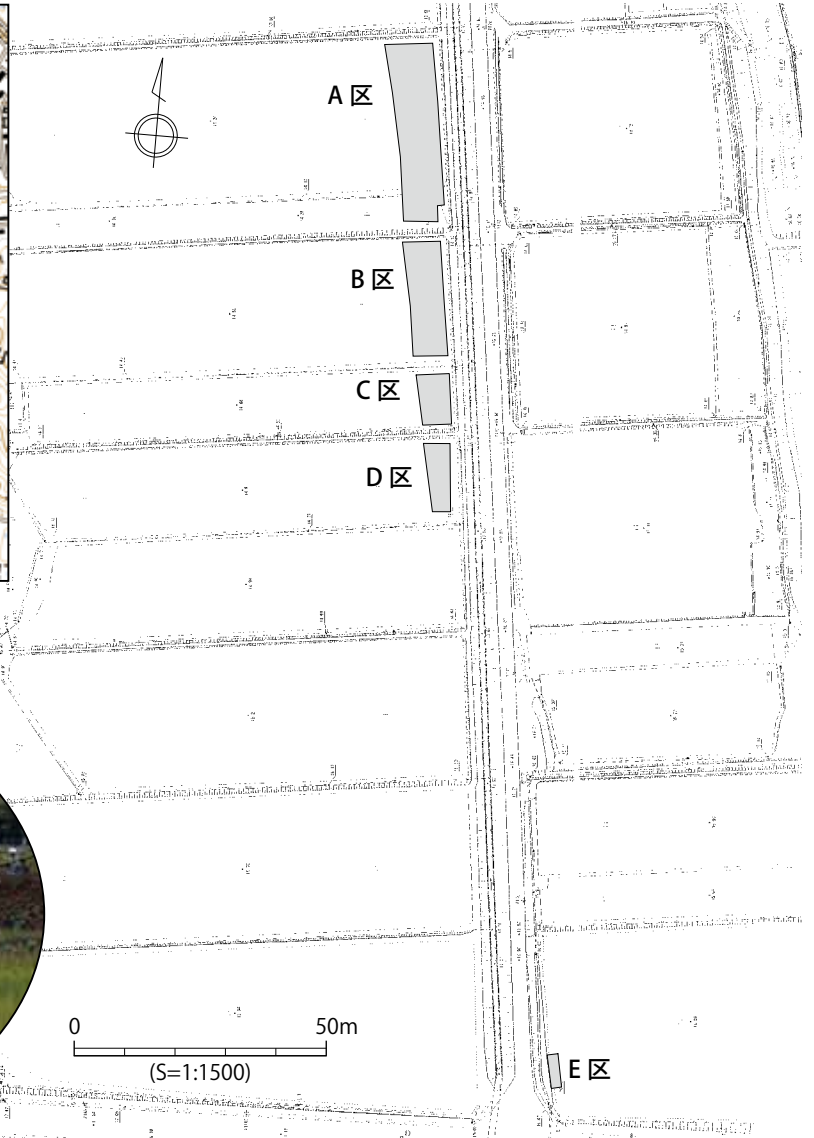
国道432号大庭バイパスの発掘調査について

平成24年3月 島根県教育庁埋蔵文化財調査センター

国道432号大庭バイパスは、松江市古志原地内から松江市大草町までの約1.9kmの道路です。島根県教育庁埋蔵文化財調査センターは、国道432号大庭バイパス建設に伴う柳堀（やなぎぼり）遺跡の発掘調査を、平成23年10月から12月まで実施しました。



柳堀遺跡周辺地図 (S=1/25,000)



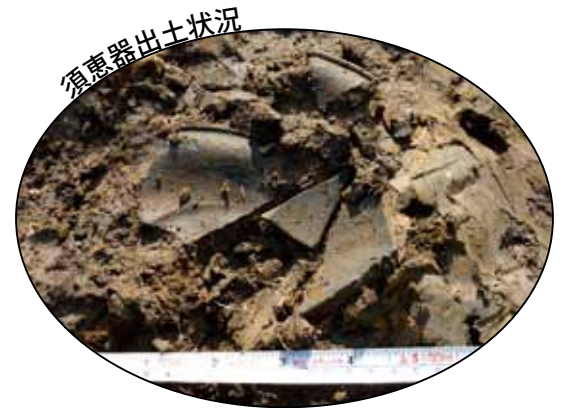
柳堀遺跡 調査区位置図 (S=1/1,500)



調査風景(北から)



A区 東壁土層断面



須恵器出土状況

土の堆積は、上からⅠ耕作土・表土、Ⅱ褐灰色泥層、Ⅲ暗褐色泥層、Ⅳ黄橙色泥層（地山）で、ⅡとⅢには水田に由来する鉾物がありました。しかし、水田の跡を見つけることはできませんでした。

A区:最も北にある調査区です。溝が3本見つかりました。溝の一つSD10は、北西-南東方向に蛇行しながら伸びており、幅約0.7m、深さ約0.6mです。断面はコ字状です。溝の上から弥生後期の土器が出土しました。また、溝2本(SD13、SD14)ありますが、土器が出土しなかったため時期は不明です。さらに調査区の南側では性格不明の遺構(SX08)を確認しました。中央には細かい砂、両端には暗褐色泥層が堆積しています。遺構の時期は古代以前と考えられますが、遺物が出土しないためくわしい時期は不明です。

B区: A区に続く性格不明の遺構(SX08)を確認しました。北西-南東方向に伸びるようです。埋土は細かい砂を含む泥の層です。また、調査区の南側で16本の杭が見つかりました。東西方向に直線的に伸びていますが、杭の間隔はそろっていません。

C区:最も狭い調査区です。遺構の一部を確認しました。

D区:南側の調査区です。自然河道を2つ確認しました。北東-南西方向へ伸びています。

E区: D区から南へ約100m離れた調査区です。遺構を検出することはできず、遺物包含層を確認しました。

柳堀遺跡の調査では、弥生時代の溝を確認しました。また、水田に由来する鋤物が確認できたことから、古代・中世の水田が存在すると考えましたが、水田の跡を確認することはできませんでした。

最後になりましたが、発掘調査に際しまして、松江市宇竜谷土地区画整理組合設立準備委員会の皆様、土地所有者の皆様にお世話になりました。記して感謝いたします。

A区



A区 弥生土器出土状況



B区 杭列検出状況



B区



C区



D区



E区

